

第1支部研修報告

明治神宮の森を歩き隊～夏編～

2026年7月16日(木)

7月16日(木)10:00～13:00 過ぎ、都内の明治神宮にて、第1支部研修「明治神宮の森を歩き隊～夏編～」が開催され、やや蒸し暑い日でしたが、27名（会員26名、非会員1名）皆様関東地方在住の方々が約3時間の実地研修に参加しました。スタッフは担当理事含め3名で対応しました。この研修は、今年1月に開催された「明治神宮の森を歩き隊研修」の夏版であり、再びNPO法人千葉県森林インストラクター会から講師2名を招き、同会のご協力のもと開催となりました。



私たち全国通訳案内士にとって普段は神社の参拝としてツアーで訪れることが多い明治神宮の鎮守の森は、約110年前の1915年に、150年先を見据えた植栽計画を立て、10万本近い献木から将来の森がその土地本来の樹木である「ふるさとの木」、つまり永遠の杜となるように、組み立てられて出来た森です。110年後の現在30メートルを超す高木に覆われた森が人工の森からどう変化したか確かめに行こう、そしてこの最高傑作の森を世界に発信しよう、と改めて夏にも実施しました。2014年に報告された第2次生物相調査によれば234種、3万6千本もの樹木の生育が確認されたそうです。樹木や植物の宝庫としての神宮をネイチャーガイディングしてみようと、発起人の正会員さんのアイデアで企画され、1月研修に参加した方もいらっしゃいました。

まず樹を同定できないと森の説明が出来ないため、2つのグループに分かれ、講師が準備した資料を手に講師が目につく樹木の説明をして行きました。常緑樹と針葉樹の違いから、それぞれの木の区別の仕方を大変分かりやすくご説明下さりました。さらに例えば、「スダジイ」という常緑樹は食べられるどんぐり。虫を呼ぶための香りを発します。丸みある幅広の葉っぱの裏が茶色がかった金色なのが特徴で、葉が多いので、空が間から見えません。逆に、楠は、葉の色が明るく、隙間も見え、空が見えます、など解説下さりました。後半は、講師から「この木は何でしょう？」とクイズセッション、終わるころには5～10種位の木の名前が言えるようになっていました。



植物園等ではなくインバウンドで訪れる神宮での樹木や草木の研修は、普段のガイディングへのヒントにもなり、明治神宮の見方が変わったことと思います。関係者皆様のご協力に感謝します。

(第1支部研修担当)